

思い出の地に暮らし、地域と自分の可能性を引き出したい。



ゲストハウス「BEACH HOUSE」経営 落合 哲さん

ゲストハウス経営、釣り、サーフィン、貝殻細工、革細工、DIY、手製の窯でピザ焼き、農家との特産品開発・・・
 京都で育ち、熊本の大学を卒業後、27年間のニュージーランド生活を経て2018年12月に長島町にIターンした落合さん。
 「毎日違う表情を見せる長島町の海岸の風景が大好き」と話します。豊かな自然や人の温かさを多くの人に知ってほしいという思いで経営するゲストハウスは、「英語が通じてネットで予約できる」希少な宿として外国人旅行者に喜ばれています。「どこに住んでもその土地を楽しむ心が大切」と話す落合さんは、まだまだ長島町で挑戦したいことがたくさんあるそう。穏やかな笑顔で、熱い思いを語っていただきました。

長島町



27年暮らしたニュージーランドから、子ども時代の思い出の長島にIターン。



移住のきっかけ、決め手はなんですか？

ニュージーランドで27年間、ソーラーパネルの販売、引越会社、車の輸入販売、英語学校などをしていました。

「いつか日本に帰る」と決めていましたが、2018年に念願の帰国を果たしました。

長島町は父の実家で、小さい頃から夏休みは1ヶ月間、長島で過ごしていました。小浜海岸で毎日朝から日没まで泳いで真っ黒になっていましたね。長島に来る1ヶ月が楽しみで、残りの11ヶ月を京都で我慢して過ごす、というくらい好きでした。思い出の長島でお世話になった方々に恩返しをしたいと思い、移住を決めました。



これから長島町でやっていきたいことは？

長島の人が幸せに暮らせるお手伝いをしたいです。

長島町はジャガイモやミカン農家が多いですが、これらは価格が一定せず、赤字になったり赤字になったりと不安定です。そこで「長島の顔」となる商品を作ろうと、アボカドやマスカを農家さんと試験栽培中です。町産の農産物や海産物を届けるネットショップ「長島新鮮市場」も運営しています。



長島と伊豆島を結ぶ「伊豆大橋」(落合さん撮影)

長島町でどんなお仕事をしていますか？

子どもの頃、夏休みに滞在していた築36年の民宿を改修してゲストハウスを経営しています。私が子どもだった約40年前にはたくさんの海水浴客で賑わっていた海辺の風景は、人口減少や各地の海水浴場の増加によって様変わりし、今では寂しいプライベートビーチのようになっていました。ここに旅行者と地元の人々が触れ合えるゲストハウスをつくることで、観光客やIターン者を増やして活気を取り戻したいと思っています。



落合さんが経営するゲストハウスや目の小浜海水浴場 (落合さん撮影)

長島町のどんなところが好きですか？

とにかく食が新鮮でおいしいです。季節の野菜がふんだんで、ブリ、アジ、カサゴ、伊勢エビなど大きくて活きのいい海の幸が手に入ります。人は気さくで温かく、世間話を楽しめます。



貝殻を細工してアクセサリーも販売

遊休不動産を活用して泊まりたくなる宿を整備したり、リタイアメントビレッジをつくりその収益で児童養護施設を運営して子どもたちが英語に触れて世界に羽ばたける仕組みをつくったりなど、構想がたくさんあります。

今春は新たに、眺望のいいゲストハウスをオープンするのでぜひ遊びに来てください！

これから移住を考える人へのアドバイスは？

私はよく「長島いいよ！」と人に勧めるのですが、大きな病院がないことを心配されます。しかし、休日当番医もいますし救急車も来ます。30分あれば阿久根市の病院に行けます。買い物も、ネットで早く届くので苦になりません。移住で大切なのは、どんな土地でもその土地を楽しむ気持ちだと思います。

ご近所さんからのコメント/町田英史さん

長島町に生まれ育ち、近所で農業をしています。落合さんの移住当初から、道で会うと冗談や世間話を交わす仲になりました。落合さんは何にでも興味を持って突き進むのがすごいですね。これからも地元民が気づいていない長島の魅力や可能性に気づいて、新しいことにどんどん挑戦してください。



DATAで 鹿児島と東京の暮らしを比較

一般病院数だけのランキングでは大都市が上位になるのは当然のことですが、人口10万人当たりで見ると、全体的に上位の都道府県の多くは中国・四国・九州の県で占められています。鹿児島県の一般病院数を全国平均と比較してみると全国平均を上回っています。

一般病院数 (人口10万人当たり)

鹿児島

14.8施設



東京

4.5施設

出典：令和3年医療施設調査

また訪れたくなる場所に。
長島の美しい風景と珈琲。



カフェ「ら・ら・ら・珈琲」店主 小崎 彰子さん

青い海とその向こうに連なる島々を一望するカフェ「ら・ら・ら・珈琲」。「1杯の珈琲が長島の思い出になる」そんな思いを込めて、一杯一杯淹れるコーヒーは、フルーティーで澄んだ味わい。長島町の景色をイメージしたオリジナルブレンドです。夏はかき氷「長島特製じゃがコーン」、秋冬は町産の紅はるかを使った6種の「焼き焼き芋」など、長島の素材にこだわったおしゃれでユニークなデザートが人気です。「長島の美しい景色を見て、おいしいものを食べて、『長島に来てよかった』『また来たい』と思ってほしい」。栃木県出身で2015年に夫の故郷に1ターンした小崎さん。長島町に感じた愛着を、カフェを通して発信しています。

写真：(左から)夫の小崎 照邦さん、次男の圭介(けいすけ)くん小学1年、長男の天志(たかし)くん小学3年、彰子さん

長島町 Iターン

美しい風景を眺めほっとコーヒーを。理想の場所、自ら実現。



移住のきっかけ、決め手はなんですか？



夫が長島町出身で、いつか帰って家業を継ぐつもりだと聞いていました。いずれ長島へ行くなら、子どもが小さい頃から田舎暮らしでのびのびと豊かで強い心を育ててほしいと思い2015年、長男が2歳の時に移住しました。

長島町でどんなお仕事をしていますか？

栃木では事務の仕事をしていましたが、移住後は、初めての土地での子育てに慣れるために特に仕事は探しませんでした。次男が3歳になった頃、そろそろ何か仕事をしようと探し始めました。

しかし、自分に合いそうな働き口が近場でなかなか見つかりませんでした。迷っていた頃、夫が、「やりたいことを仕事にしてみたら」と言ってくれたんです。私はもともとカフェが好きで、コーヒーを飲んでほっとできる場所がほしいと思っていましたが、夫の言葉で、「長島にないのなら自分でやってみよう」と思いました。

景色のいいところがないかと役場に相談したところ、町長と直接お話をいただき、現在の場所を紹介いただきました。リフォームして、2021年8月に念願のカフェ「ら・ら・ら・珈琲」をオープンしました。



道の駅「長島水テトハウス望閣」



水テトハウス2階「ら・ら・ら・珈琲」



長島産さつまいも、贅沢6種盛り「焼き焼き芋」



厨房でドリップコーヒーを淹れる小崎さん

DATAで鹿兒島と東京の暮らしを比較

両親が共働きなど、日中に保護者が不在の小学生が放課後を過ごす場所のひとつに、学童保育(放課後児童クラブ)があります。利用を希望しても、定員超過などの理由で利用できない子どももたくさんいますが、待機児童数が多い東京に比べて、校区にもよりますが鹿兒島は余裕があります。

出典：令和4年(2022年)放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の実施状況

長島町のどんなところが好きですか？

栃木では魚はあまり食べませんでした。が、長島町の魚は本当に美味しくよく食べようになりました。初めて食べた「がね」(さつまいもの天ぷら)には感動しました。夫の祖母の手作りでアオサが入っています。子どもたちも大好きです。

学校は生徒数が少ないので、先生方によく見てもらっていると思います。習い事の種類は限られていますが、虫採りや魚採りなど自然で遊び、のびのび育っています。共働きのなので、下校後は児童クラブに預かってもらえて助かっています。

これから長島町でやっていきたいことは？

長島土産として持ち帰ってもらえるようコーヒー豆のパッケージ販売をしたいと思っています。家でコーヒーを飲みながら長島を思い出して、また来ていただきたいですね。

また、自分たちの家を持ちたいと思っています。土地や空き家もたくさんありますし、リフォームの補助金もあるので心強いです。子どもたちには夫の仕事であるブリ養殖を見せるなどいろんな経験をさせたいです。



これから移住を考える人へのアドバイスは？

子どもが小さいので病院事情は心配で調べたりしました。診療所は最近、お医者様が増え、設備がよくなり安心しています。島の人は明るく元気で温かく、がんばっている人が多いです。自分も前向きな気持ちになります。移住してくる方は、気を張らず、楽な気持ちで長島暮らしを楽しんでみてください。

お客様からのコメント/二階堂みきさん

「ら・ら・ら・珈琲」ができてから、「近所にコーヒーを飲むところがあった!」と、うれしくて頻繁に行くようになりました。友人を誘って行き、彰子さんも仲良くなりました。私が主催するマルシェに彰子さんに出演してもらったり、互いの近況を「聞いて〜」と語り合ったりと親しくさせていただいています。彰子さんの聞き上手で穏やかなお人柄と美味しい珈琲のおかげです。



放課後児童クラブの待機児童数

